



令和2年7月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

テングサ種苗の移植試験を開始

これまで当场では、テングサ藻場回復のためのテングサ以外の雑海藻の除去や、母藻投入による胞子供給の効果などについて調査を行ってきました。しかし、藻場の状況は年々変化し、近年は母藻となるテングサ自体が著しく減少している漁場もあります。そこで、天然の海藻に頼らない藻場回復を可能とするため、人工的なテングサ種苗の生産と、これを天然漁場へ移植する試験を開始しました。6月5日に実験室で約3か月間培養したテングサ種苗を、分場前の砥川浦に移植しました。今後さらに移植を続けて生育状況を観察していく予定です。また効率的な種苗生産の方法についても検討していきます。

解説：テングサはテングサ科に含まれる海藻の総称で、日本では約20種が知られている。伊豆半島で採られている主なテングサはマクサで、この他にオオブサ、オバクサ、ヒラクサなどがある。



潜水による種苗設置



↑
実験室で培養中のテングサ種苗

熱海市伊豆山で磯焼け対策の実施

熱海市伊豆山地区は豊富なカジメ群落とそこでの潜水漁業で知られていました。しかし、この2月にカジメの磯焼け発生が確認され、6月2日に関係機関協力の上、磯焼け対策が実施されました。海藻培養用のコンクリート

ピース500個の投入作業が行われ、当场でもカジメ母藻移植のためカジメ付建築ブロックを提供しました。対策が実り、カジメ群落が回復し豊かな海が戻ることを願っています。



←カジメ付建築ブロック



海藻培養用ピース→

解説：母藻移植は海藻を増やす手段の一つ。磯焼けのように、増やしたい海藻が全くなってしまった場合、親となる海藻を移植する必要がある。

キンメダイ親魚の採捕

当场ではキンメダイの種苗生産技術開発に取り組んでいます。今年もキンメダイの産卵期が近づき、傭船により親魚の採捕を開始しました。5月26日と6月16日の2回の操業で採捕したキンメダイは、将来の親魚候補として焼津の深層水利用研究施設で飼育しています。7~8月の産卵盛期には、船上で人工授精を行う予定です。新しくなった伊豆分場で、平成28年に記録したふ化仔魚の飼育期間18日を更に長期化できるように技術開発を行います。



漁船によるキンメダイ親魚の採集

7月の予定 ●研究課題要望調査のため管内を巡回します。●引き続きキンメダイの親魚採捕を行います。●中間育成したマダイ稚魚が各地で放流されます。●西伊豆地区の流通効率化に向けた検討を行います。

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

当场には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。